

# シグマ研究委員会

## 昭和57年度 第6回運営委員会議事録

日 時 昭和58年1月21日（金） 13：30～17：30  
場 所 原研東海研 研2-222号室  
出席者 原田（委員長，原研）  
白方（動燃），梶山（東北大），中沢（東大炉），中嶋（法大），  
五十嵐，菊池，田中，松浦（原研）  
オブザーバ：浅見（哲），片倉（内藤代理），坂本，高野，田村，  
松本（原研）

### 配布資料

1. 前回（57.12.10）議事録（案）
2. 原子力学会，58年年会核物理・核データ関係セッション
3. JENDL積分評価WG資料
4. 崩壊熱評価WG資料
5. 核構造データWG資料
6. 核融合炉中性子工学 日米ワーク・ショップ
7. 核データ・炉物理合同特別会合
8. 核種生成量評価WG資料
9. 核融合炉・遮蔽定数WG資料

### 議 事

1. 前回議事録確認  
資料1により確認を行った。この中のJENDL-2の公開に関連して五十嵐氏から，1月11日に原研本部及び科技厅に説明したことが報告された。
2. 事務局報告

- (1) 58年度委員の発令手続きのアナウンス
- (2) 年度内WG会合の開催についてのアナウンス
3. 核融合炉ブランケット中性子工学の日米セミナー報告  
菊池氏から資料もにより日米ワークショップの今後の計画，とくに実験及び解析の概要，核データへの要求についての説明があった。

#### 4. 学会特別会合

梶山氏から，1月14日の学会のプログラム編集委で決まった核データ・炉物理合同特別会合のプログラム（資料7）の紹介，春の原子力学会のプログラムの概要，核データ関係のプログラム（資料2）の説明があった。

#### 5. 57年度WG活動状況及び58年度活動計画

（各WGとも説明の内容は省略し，議論のあった事項のみを記す。）

##### (1) 熱中性子文献グループ（坂本）

これまでの活動の経緯の説明の後，このグループの作業活動は諸般の事情により57年度で終結したいとの意思表示あり，討議を行った。永年続いてきたこの活動が途切れるのは惜しいとの意見が多かったが，止むをえない事情もあることから，シグマ委としては今年度で止めるが，作業を引き受けてくれるところを探すことにした。

##### (2) 核種生成量評価WG（片倉）

資料8により説明があった。燃料計算から核データへのフィードバック，核データ側からのアプローチの方法等について議論があった。また，方法論の確立が必要であるとの指摘もあった。

##### (3) JENDL 積分評価WG（高野）

資料3により説明があった。核融合炉や遮蔽のベンチマーク・テストはどこでやるか，JEFのベンチマークテストはどうするのか等の質疑応答があった。

##### (4) 核構造データWG（田村）

資料5により説明があった。58年度に予定しているA=131, 135, 177の評価については，今迄に何らの報告もなかったことが指摘され，新たなことに関しては，今後は報告するよう要請があった。また，ENSDFの利

用の体制やアナウンスについての議論があった。

(5) 核融合炉・遮蔽定数WG（中沢）

資料9により説明があった。DDXコードの現状，遮蔽国際会議へ提出するレポート等について質疑応答があった。

(6) 崩壊熱評価WG（松本）

資料4により説明があった。ガンマ線スペクトルデータの解析の狙い及び遅発中性子データの取扱い等について質疑応答があった。また，将来，核融合炉開発から崩壊熱計算について要請があったときに応えられるようにしておいて欲しいとの要望があった。

なお，次回は核データ専門部会内のWGの報告を受けることにした。

6. NEANDCのTopical Discussionの議題

五十嵐氏から，前回の議論にもとづきテーマの案としてMeasurements and Evaluations of Nuclear Data and Decay Heat for Productsが提案され了承された。来年度に入ったら早々に世話人会をつくることにした。

7. その他

田中氏からCINDAグループの新旧交代のために新人を入れて1年間オーバーラップさせ，交代を円滑に行いたいとの話があった。

次回は2月18日（金） 13：30より東京本部の予定。

以 上